

アーカイブ Data Report

NO. 104

(2021年4月5日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F

E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

NPO 日本アーカイブ協会・岐阜女子大学*・沖縄女子短期大学・学習システム研究会

(* 岐阜女子大学デジタルアーカイブ専攻・研究所、沖縄サテライト校)

大学教育の遠隔教育からハイブリッド化への発展と課題

松川禮子、杉山博文、後藤忠彦（岐阜女子大学）

江戸時代の寺子屋、明治の学校制度から今日まで、対面授業は学校教育における主要な学びの方法として既に200年以上も継続してきた。対面授業とは、指導者と受講者が空間と時間を共有する学びの方法である。現在、情報化の進展など社会の激しい変化、さらに2020年の新型コロナウイルス感染症の流行で小学校教育から大学教育まで学びの方法が大きく変化しようとしている。

社会の変化の中には、不登校児童生徒の増加もある。2021年4月には通学とオンラインを自由に決められる中部地方では初の公立不登校特例校草潤中学校が岐阜市に開校した。

1. 遠隔教育からハイブリッド化へ

情報化の進展にともなう学びの方法の変化は、20世紀の末から顕著に見られるようになり、遠隔教育が次第に広がりを見せてきた。現在、対面か遠隔かという議論が盛んになされているが、それを越えてハイブリット方式の授業の実施が可能になり、学生が学びの方法を選択し、組み合わせることができる状況になってきている。ハイブリッド (hybrid) とは、もともと「異種のを組み合わせたもの」という意味である。

例えば、デジタル化の発展で、次のような各種の学びの方法を組み合わせ・選択が進もうとしている。

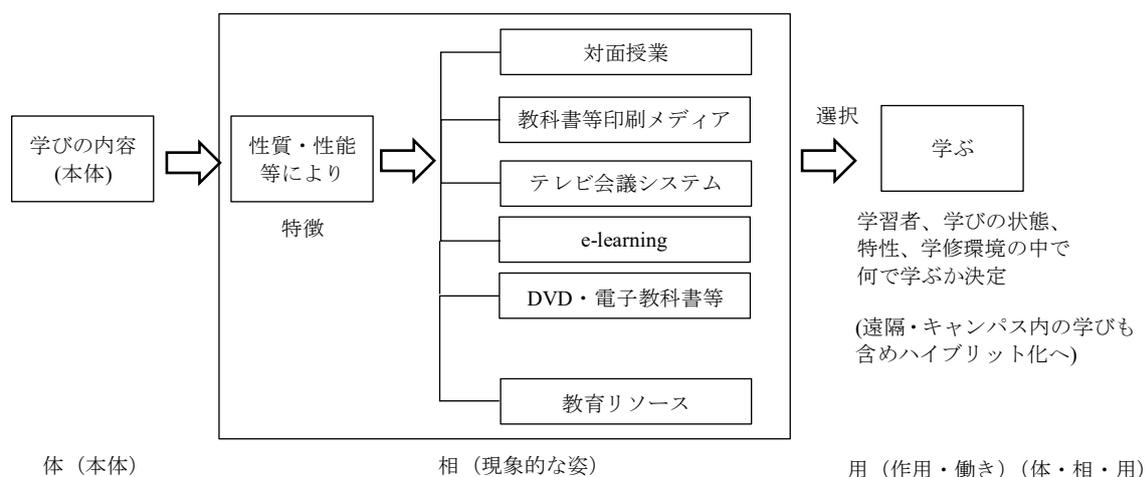


図 遠隔教育からハイブリット化へ

とくに、生涯学習でのリカレント教育等では、学びの方法の多様化が求められ、今後、遠隔・キャンパス内の学びのハイブリット化を進めるべきである。このためには、教育リソース(デジタルアーカイブ)の整備をして、テレビ会議システム、e-learning等の学修を支援する学習情報環境の整備が必要である。

(注) 体相用 (タイソウユウ) [仏教] は、心の本体 (本) とその性質・性能 (相: 現象的なたがた)、さらにその作用 (用) が重要な構成となっている。

このような提示・提供の多様化は、デジタルアーカイブの利活用では既に 20 年前から始まっている。本体の内容の特性、特質を配慮し、多様な方法での提示・提供が可能になり、その中から必要な方法を組み合わせ活用している。

戦後の教育改革を担当され、国定教科書から検定教科書への移行や米国司令部の指示で学習指導要領の命名、さらに現状の教育委員会制度を担当された故木田宏先生は、昭和 29 年の文部省社会教育局視聴覚教育課長の頃から遠隔教育の支援をされ、放送大学の設置にも努力されていた。また、2000 年には岐阜女子大学と全国の関係大学が共同し衛星放送とテレビ会議システム等を用いた教員の専修免許状講座にも遠隔教育振興会会長として支援をいただいた。

その後、岐阜女子大学でもこの方式を発展させ、沖縄女子短期大学の好意で沖縄サテライト校を同大学に設置し、対面とテレビ会議システム、e-learning を用いた大学・大学院の講義を実施している。そこでは、学生の都合で欠席した場合、家で e-learning でも学修が可能になっている。また、テレビ会議システムで岐阜女子大学とサテライト校で同時に開講し受講が可能になっている。

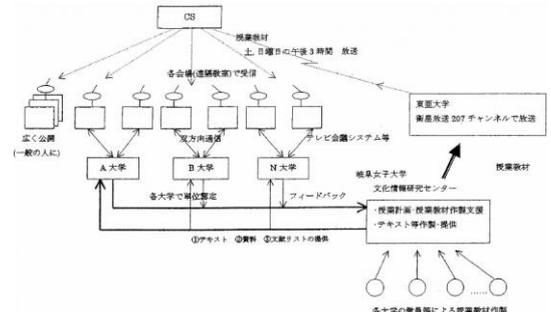


図1 衛星放送、テレビ会議システムを用いた遠隔教育

日本教育情報学会誌「教育情報研究」第 16 巻第 2 号，2000，p31-38 より

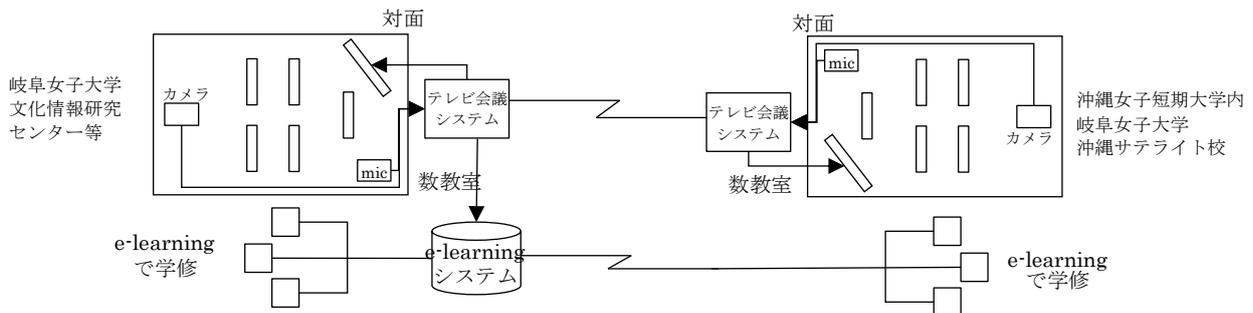


図 対面、テレビ会議システム、e-learning で学修

岐阜女子大学では、新型コロナウイルス感染症の流行に対応し、大学の授業を早くからテレビ会議システム等を用いた遠隔授業を展開し、対面授業と合わせて受講可能とした。e-learning 等遠隔教育の欠点の 1 つに、受講者が図書館・資料室に容易にアクセスできないことがあったが、現在は、これを補うために学修支援デジタルアーカイブの開発を進め、学習情報環境の整備を進めている。

2. 教育行政における教育の方法の先取り

木田先生は「良いことは実施しなさいよ。法律や規定は後からついてくるよ。」とよく言われていた。このように、木田先生は数十年先から現在を見る方であった。教育委員会制度も多くの反対の中で教育の先を見て担当課長として努力したと良く言われていた。

現在、情報化の進展等、激しい社会の変化に対応し、遠隔教育、さらにハイブリット方式の学びの選択へどのように進めるか、先を見た教育行政が望まれる。

また、多様な学びの方法の展開と合わせて、国立国会図書館の図書デジタルアーカイブ、国立教育政策研究所の教育情報センターのデジタル資料、学術情報研究所のデータ、さらに大学、各機関、教育委員会、センター等のデジタルアーカイブ等の資料の活用と、SARTRAS など著作権処理の仕組みづくりも含め、いかにして幼稚園から大学教育までの学びに対応した学習情報環境を整備するかが課題である。

現在、義務教育では GIGA スクール構想が進められているが、ここでも学習情報環境の 1 つとして教育リソース(デジタルアーカイブ)が必要であり、さらに遠隔教育・ハイブリット方式の学習に発展できる環境造りが望まれる。